

編集後記

20号をお送りします。

今回は従来とは体裁を異にし、『西安碑林全集』を主な材料に、西安の文廟関係碑刻の録文を特集しました。「はしがき」にも書きましたが、今、我々が拓本をどの程度「読む」ことができるのか、という試みです。

このような作業は無意味だという考え方も当然ありうると思いますが、「拓影から碑を読む」という我々の姿勢の一つのあらわれとしてご理解いただければ幸いです。成文化にご協力いただいた、牛根靖裕さんと山本明志さんは、いずれも本科研の研究会のメンバーで、研究協力者として活動していただくこともある方々です。

次号からは、いつものように論考や現地調査や学会の報告の雑誌に戻ります。そちらのほうにもご協力のほどお願い申し上げます。

また、本科研の研究代表は村岡さんですが、編集は森田憲司がおこなっております。本誌についてのご連絡は森田までお願いいたします。

(もりた けんじ)

13、14 世紀東アジア史料通信 第 20 号

2013 年 2 月発行

編集 森田憲司

発行者

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 B

「河南・山西地区の多民族融合社会史の研究 — 石刻史料による中国地域社会史解明の試み」研究グループ

(代表 村岡倫)

連絡先

〒631-8502 奈良市山陵町 1500

奈良大学文学部史学科 森田研究室